中期朝鮮語の所謂「感嘆」の「-에라」について*

河　崎　啓　剛

1．はじめに

本稿の目的は、中期朝鮮語で一般的に「感嘆」を表すとされる「-에라」[1]の語源的由来を明らかにし、その意味用法の詳細を明らかにすることにある。

伝統的にこの「-에라」は「感嘆」を表す語尾として、感動法「-도다」や「-고녀」「-은뎌」「-을쎠」等と一括りにされてきた。そうした中、研究の関心はより広範に出現する感動法「-도다」等に集中し、「-에라」については「感嘆文」の周辺的存在として言及されるに止まってきた。「-에라」に由来する現代語の「感嘆」の「-어라」ですら、あまり研究がなされて来なかったというのが現状である。

本稿では、この「-에라」が「-어」理由節に繫辞「이-」がついた形に由来し、一言で言えば現代語の「(내가) ~어서 그래」「~어서 말이야」等に近い構造と意味を持つ語尾である事を指摘する。つまりこれは「-어」理由節が焦点化された「分裂文」(cleft sentence) に現れる「-에라」と連続的であり、また「-어」理由節の主節にあたる核心部分が明示化されない「省略文」である。所謂「感嘆」の「-에라」と「分裂文」の「-에라」は全くの同形であるが、管見の限り、従来は同音異義語として注意を向けられる事も無かったようである。

2．先行研究

所謂「感嘆」の「-에라」について、安秉禧（1967：218）は「感嘆法」の説明の中で「形容詞には先語末語尾「아/어」と「거」に叙述格語尾の説明法「-ㅣ라」を連結した形態が中世語に見える」という非常に簡単な記述によりこれを紹介している。허웅（1975：930f.）は「強調 - 詠嘆法」の説明の中で「-아/어-」系には「-아/어-」「-애/에-」「-앳/엣-」が含まれる、として「-애/에-」の形でこれを示し、「感嘆（느낌）を表す先語末語尾（안맺음씨끝）であり「-아/어-」とは同じ系列の異なる形態素である」「「-아/어-」は強調を表す結果指定的な事実を表しもするが、この語尾は単純に感嘆（느낌）を表すのみである」と説明した。

志部昭平（1982）は管見の限りこの「-에라」のみを専門的に扱った唯一の先行研究である。「-에라」の文献的分布の分析に始まり、これが「感嘆法」ではない事を強調しつつ「陳述法終止形語尾」と規定した点は他の研究と一線を画している。また「形容詞に接続する」とされていた特徴をより精密に記述した[2]ほか、「話手自身の状態について陳述する」という一種の人

---

* 本研究は科学研究費補助金　基盤研究（B）（一般）（研究課題番号：21H00522）「日韓両語の『不完全な文』に関する総合的研究：情報と言語化の関係の解明にむけて」の成果の一部である。

[1] 本稿では簡潔のため「-에라」の表記により、「-애/에라」という母音交替、その丁寧形「-애/에이다」、その「ㅣ」脱落形「-아/어이다」等を全て代表する事とする。

[2] 志部（1982：7）の記述は以下の通り：これらの語尾が如何なる種類の用言語幹と結合するか，について見るならば，その特徴として①静態的用言と結合することが多いこと，即ち現代語でいう形容詞に当るものとの結合である。②次にそれに準ずる，所謂存在詞及び用言の否定形などとの結合が多い

称制約的な観点からも論じた[3]。そうした一連の見解は志部（1990：37）において「-에라」を説明した「Ⅲ ㅣ·라は陳述法対下終止形語尾。用言のうち、おもに存在詞、形容詞に付くが、多く話者自身の状態について強い感動の気持ちを込めて表現するのに用いる。」という記述に集約されている。

また志部（1982）では、例は少ないが『飜譯老乞大』『陶山十二曲』等に現れる「-에」についても「-에라」と同系統の語尾とみなしている事も注目されるほか（cf. 本稿5.1節）、全般的に例文の日本語訳にあたり「-에라」に対応する訳として所謂「ノダ」文を多用している点も指摘しておきたい。それは決して統一的に処理されてはおらず、また明示的な言及は一切無いため、志部（1982）の無自覚的な直観の発露した傾向性であると解釈される。

이승희（1996）では「중세국어 감동법 연구（中世國語感動法研究）」の中で、感動法「-돗/옷/ㅅ-」と共に「感嘆の意味を帯びたもう一つの先語末語尾‘-에/게-’」としてこれを位置づけている。現代語「-어라」との比較の観点から共通点も指摘する一方で、中期語「-에라」には聞き手待遇法の区別がある事、「質問への回答」や「要請」の場面でも用いられる事等から「独白的」とは言えず、現代語「-어라」とはかなり性格が異なる事を指摘している。その他にも「-과라」と「-괘라」が混同される現象の指摘、中期語の「-게라」「-게이다」の用法が極めて限定的である事の指摘、「-으시-」と結合した例もある事の指摘等、志部（1982）には無い多くの重要な指摘がなされているが、志部（1982）が参照されなかった事は残念な事である。管見の限り、以後の関連研究でも志部（1982）は参照されていない。

本稿は基本的に志部（1982）の議論を踏襲するものであるが、ただ一点、その議論を大幅に修正する事が本稿の主眼となる。それは、志部（1982）を含む従来の先行研究において、この「-에라」に含まれる母音「어」が「完了」時相を表す先語末語尾「-어-」に由来するとみなされて来た点である[4]。そして後続する「이라/이이다」はその形態や漢文に付された口訣吐との対応から繋辞「이-」に由来すると見るのが定説であるが、しかしそれでは先語末語尾である「-어-」に繋辞「이-」が直接接続するという無理を許す事になってしまう。にも拘わらず、従来この形態素連続上の齟齬は特に問題視されて来なかったようである。

これに対する本稿の「修正」とは、上述した通り「-에라」に含まれる母音「어」を「理由」を表す連結語尾「-어」に由来するものとみなし、所謂「分裂文」（cleft sentence, cf. 李賢熙 1994：79ff.）を作る「-에라」と連続的なものとみなすというものである。この修正により上

こと，そして③これら以外の動作的用言即ち動詞との結合が少ないこと，を挙げることができる。更に言えば，体言に措定詞 -i(r)-“～デアル”の附いた語幹とは結合することが無い。（下線は引用者）

[3] 志部（1982：10-11）の記述は以下の通り：結論から先に言えば，この語尾が使われるとき，叙述される事柄内容は話手自身と深く関わりを有するのである。これらは，発話の時点での話手自身又は心理的に話手自身と深く関わる，ある状態に重点を置いて陳述されるように見える。…（中略）…これらの例から，この語尾が用いられる場合，陳述される状況なり事態が，ことに話手自身にとって問題となることが解るが，これは，主語とか主題とかが「一人称」であるというような文法的なものではなく，より意味的なものであるように思われる。（下線は引用者）

こうした一種の「人称制約」に関わる指摘は、「-에라」が尊敬の「-으시-」には結合しないとした志部（1982：6）の指摘とも密接に関わっているものと考えられる。

[4] その理由は、もちろん「-에라」「-에이다」に対して「-게라」「-게이다」が存在し、これらが「-어-」と「-거-」の交替形とみなされるためであろう。しかし「-게라」「-게이다」の用法が極めて限定的である事を勘案すれば、これは「誤分析」による類推から二次的に生じた交替形であると説明する事が十分に可能であり、必ずしも語源的な由来がそこにあるとは限らない。本稿5.3節の議論を参照。

記の形態素連続上の問題は解消し、また従来果たせなかった精密な意味用法の理解が可能となる。この「修正」から導き出される本稿の議論は志部（1982）自身のその他の議論や意味分析と矛盾無くよく調和するばかりでなく、「なぜそういう意味になるのか」という説明を可能にし、その意味的議論に確固たる形態的根拠を与える事になるという点で、本稿と志部（1982）とは相互の議論をより強固に補強し合う関係となる。

3.「分裂文」の「-에라」

허웅（1975：536）では「感嘆」の「-에라」の記述（Id. 930f.）とは全く無関係に、所謂「分裂文」の「-에라」についても言及している。連結語尾「-어」の記述の中で「（この語尾に）「-이다 sic」がつけば‘~해서 그렇게 하는 것이다’のような意味を表す」として以下の様な数例を挙げたのがそれである。

（1）a. 相과 非相과를 외다 ᄒᆞ샤ᄆᆞᆫ 뎌의 斷常애 딜가 저헤시니 ᄒᆞ다가 부톄 無相ᄒᆞ시다 너기면 ᄇᆞᆯ서 斷滅이 일리라（訶相與非相은 恐伊의 落斷常이시니 若謂佛無相이면 早已成斷滅ᄒᆞ리라）〈金三5：1b〉
相か非相かという議論を間違っていると仰るのは、その人が断見や常見[5]に陥ってしまうかと恐れて（のこと）である。もし仏に相が無いなどと考えれば、早々に断滅（断見）論が成立してしまうであろう。

b. 그듸 가매 늘근 어버ᄉᆡᆯ 여희ᄂᆞ니 / 이 가ᄆᆞᆫ 지븨 가난호ᄆᆞᆯ 苦로이 너계로다（君行別老親 此去苦家貧）〈杜詩23：41a〉
あなたは旅立ち老いた親と別れるが / この旅立ちは家の貧しさを苦にしてのことよ

つまり、（1a）の「저헤시니」（저허+이시니）や（1b）の「너계로다」（너겨+이로다）は、現代語に直訳すればそれぞれ「두려워해서이신데」（恐れて、でいらっしゃるが）[6]「여겨서이구나」（思って、であることよ）のようになるわけである。

周知の通り、以下のような例文（2a）を「元の文」とする時、文中のある成分（ここでは「기뻐서」）を強調するために抜き出し、（2b）のようにコピュラ文を主節とする構文に変形した文は一般に「分裂文」（cleft sentence）と呼ばれる。

（2）a. 아이가 기뻐서 웃었다.　　**子どもが嬉しくて笑った。**
b. 아이가 웃은 것은 기뻐서이다.　　**子どもが笑ったのは、嬉しくてである。（嬉しいからである）**

このような「分裂文」に現れる現代語の「-어서이다」「-어서입니다」を中世語に直訳すれば正に「-에라」「-에이다」となるが、終結語尾「-다」で終わるこの２つの語形に限って言えば、

[5]「断常」とは「断見」及び「常見」を指す。仏教ではこれらを邪見とし「不断不常」の中道をよしとした。「断見」とは輪廻転生を否定し死ねば全てが「断滅」すると考える見解を言い、「常見」とは人の一生はこの世の一回限りであるが、死後もこの世界において「アートマン（自我：霊魂）」という固定の実体が不滅で永続するものであると考える見解を言う。

[6] 허웅（1975）では「두려워서 그렇게 하시는 것이니」の意と説明されている。

本稿の扱う感嘆・詠嘆の「-에라」「-에이다」[7]と全く同形となるわけである。

また、李賢熙（1994：79ff.）は中世語の「分裂文」の多様性を紹介する中で、特に「-어」による理由節を焦点化したものの例として、以下の諸例を挙げた。

(3) a. 眞實로 보아 울워ᄉᆞ옴도 ᄒᆞᆫ갓 이 ᄆᆞᅀᆞ믈 어데니（允所瞻仰도 徒獲此心이니）〈楞嚴2：21b〉
正に、仰ぎ見て敬うのもひとえにこの心を得たからであり
b. 온(R) 고ᄃᆞᆫ 아ᅀᆞ믈 爲ᄒᆞ얘오 ᄯᅩ 飮食을 爲호미 아니니라（所來爲宗族 亦不爲盤飧）〈杜詩8：33a〉
私が来たのは宗族のためにであり、なにも飮食のためではないのである
c. 나그내 病ᄒᆞ야 머므러슈믄 藥ᄋᆞᆯ 因ᄒᆞ얘오 보미 깁거늘 사ᄆᆞᆫ 고ᄌᆞᆯ 爲ᄒᆞ얘니라（客病留因藥 春深買爲花）〈杜詩15：14a〉
旅の私が病んでこの園に留まるのは薬草のためであり、春の深まったこの園を買ったのは花のためである
d. 곳다온 바ᄇᆞᆯ 보ᄃᆞ라이 지소ᄆᆞᆫ 늘근 한아빌 말ᄆᆡᄒᆞ얘로다（軟炊香飯緣老翁）〈杜詩16：61a〉
香しい飯をふっくらと炊いてくれたのは、この老いた爺さん（私）のためなのだな

参考までに、李賢熙（1994）では「-어」の他にも、連結語尾による従属節が焦点化される「分裂文」の例として以下の「-을씨」「-고져」「-과뎌」「-오려」の例を挙げている。

(4) a. 因이 ᄀᆞᆮᄒᆞᆯ씨라〈法華4：64b〉　**因が同じだからである**
b. 사ᄅᆞ미 알에 코졔시니〈南明上2b〉　**人に知らせようとして（の事）であり**
c. 行애 가과뎨시니〈法華6：118b〉　**行に進んで欲しいと思って（の事）であり**
d. 塵勞애 나례어늘〈楞嚴6：86b〉　**塵勞から出ようとして（の事）であるが**

さて、以下の例も同様に「-어」理由節を焦点化した分裂文であるが、主語（主部）が文脈上明らかなため省略されたものとみなされる。以下の例文ごとに付された①は省略の無い分裂文の復元、②は更にそのもとの基底文の復元を試みたものである。

(5) a. 門 자ᄇᆞᆫ 사ᄅᆞ미 드러 닐오ᄃᆡ“밧긔 여듧 道士ㅣ 와 닐오ᄃᆡ‘부러 머리셔 오니, 비ᅀᆞᄒᆞᆷ 거시 이셰라’ ᄒᆞᄂᆞ이다.”（時守門者入白太子：『外有道士，悉皆拄杖，俱翹一脚住。自說言：「故從遠來，欲有所乞。」』〈須大:419b18〉）〈月釋20：64b〉
門番が入って言うには「門の外に八人の道士が来て、『わざわざ遠くから来たが、頂きたいものがあってのことだ』と言っております。」
①“(머리셔 오ᄆᆞᆫ) 비ᅀᆞᄒᆞᆷ 거시 이셰라”（遠くから来たのは）頂きたいものがあるからだ
②“비ᅀᆞᄒᆞᆷ 거시 이셔（머리셔 오라）”頂きたいものがあって（遠くから来た）
b. 父母ㅣ 업거늘 앐이 生計 ᄂᆞᆫ호아 ᄃᆞᆫ 사로려 커늘 말이ᄃᆞᆯ 몯ᄒᆞ야 奴婢란 늘그니ᄅᆞᆯ 가지

[7] ただし、この「感嘆」の「-에이다」は繋辞の「이」が脱落して「-어이다」の語形で現れる事が多い。

며 닐오ᄃᆡ “나와 ᄒᆞ야 ᄒᆞᆫᄃᆡ 일ᄒᆞ얀 디 오라니 너희 몯 브리리라”. ᄆᆞᄅᆞᄆᆞ란 사오나ᄫᆞ니ᄅᆞᆯ 가지며 닐오ᄃᆡ “져믄 제브터 ᄒᆞ던 거시라 됴히 너기노라”. 器具란 ᄒᆞ야디니ᄅᆞᆯ 가지며 닐오ᄃᆡ “아래브터 ᄡᅳ던 거시라 내게 便安ᄒᆞ얘라” ᄒᆞ고 가지더라.（父母亡 弟求分財異居 包不能止 奴婢引老者 曰與我共事久 若不能使也 田廬取荒頓者 曰少時所治意所戀也 器物取朽敗者 曰素所服食 身口所安也）〈三綱孝7〉

父母が死ぬと、弟が財産を分けて別々に暮らそうと言うのを止めることができず、奴婢は老いた者を取って言うに「私と共に働いて久しいのでお前達にはうまく使えまい」。土地は荒れた所を取って言うに「若い頃からやってきた所だから愛着がある」。家財は古びた物を取って言うに「昔から使ってきたもので私には使い心地がよくてね」と言いながら選んだのだった。

①“（ᄒᆞ야딘 器具ᄅᆞᆯ 가죠ᄆᆞᆫ）내게 便安ᄒᆞ얘라”（古びた器具を取ったのは）使い心地がよいからだ

②“내게 便安ᄒᆞ야（ᄒᆞ야딘 器具ᄅᆞᆯ 가죠라）”使い心地がよくて（古びた器具を取った）

b'.…닐오ᄃᆡ “내 져머실 제브터 슈리ᄒᆞ던 거시라 내 ᄠᅳ데 ᄉᆞ랑호애라”[8] ᄒᆞ며 器物을 석고 히여딘 거슬 가지며 닐오ᄃᆡ “내 아래브터 ᄡᅳ며 먹던 거시라 내 몸과 입에 편안ᄒᆞ예라” ᄒᆞ더라（…曰吾少時所理ㅣ라 意所戀也ㅣ라ᄒᆞ며 器物을 取其朽敗者 曰我ㅣ 素所服食이라 身口所安也ㅣ라ᄒᆞ더니）〈飜小9：23a〉

b".…ᄀᆞᆯ오ᄃᆡ “내 졈어실 제 다ᄉᆞ리던 배라 ᄠᅳᆫ에 ᄉᆞ렴ᄒᆞᄂᆞᆫ 배라” ᄒᆞ며 器物을 그 석고 히여딘 거슬 가지며 ᄀᆞᆯ오ᄃᆡ “내 본ᄃᆡ ᄡᅳ며 먹던 배라 몸과 입에 편안히 너기ᄂᆞᆫ 배라” ᄒᆞ더니（…曰吾少時所理ㅣ라 意所戀也ㅣ라ᄒᆞ며 器物을 取其朽敗者 曰我ㅣ 素所服食이라 身口所安也ㅣ라ᄒᆞ더니）〈小學6：20b-21a〉

c. 王生이 내의 ᄂᆞᆺ비치 사오나오ᄆᆞᆯ 怪異히 너기ᄂᆞ니 / 對答ᄒᆞ야 닐오ᄃᆡ “벼개예 굽스러 어려우미 ᄀᆞᄃᆞᆨᄒᆞ얘라”（王生怪生顔色惡 答云伏枕艱難遍）〈杜詩3：50a〉

王生が私の顔色が悪いのを怪しむが、私はそれに答えて言う、「（病で）枕に伏して、苦難に満ちていてね。」

①“（ᄂᆞᆺ비치 사오나오ᄆᆞᆫ）어려우미 ᄀᆞᄃᆞᆨᄒᆞ얘라”（顔色が悪いのは）困難が満ちているからだ

②“어려우미 ᄀᆞᄃᆞᆨᄒᆞ야（ᄂᆞᆺ비치 사오나오라）”困難が満ちていて（顔色が悪い）

d. 善容이 보고 무로ᄃᆡ “예셔 道理 行호ᄃᆡ 엇던 시르미 잇관ᄃᆡ 일운 일 업슨다?” 梵志 닐오ᄃᆡ “한 사ᄉᆞ미 ᄌᆞ조 흘레 ᄒᆞ거늘 보고 ᄆᆞᅀᆞᄆᆞᆯ 뮈워 몯 치자배라.”（王弟見而問曰。在此行道。有何患累而無成辦。梵志報曰。坐有群鹿數共合會。我見心動不能自制。〈釋迦：67a08〉）〈月釋25：131a-b〉

善容が見て尋ねるに「（あなた方は）ここで修行しているが、一体何の患いがあって、成し遂げた成果が無いのだ？」梵志が答えるに「それが、鹿たちがしょっちゅう交尾しているのを見て、心を動かしてしまい自制できないのです。（我々はどうしたらいいのでしょうか？）」

---

[8] 志部（1982：15）ではこれを（一人称）「-오라」と「-애라」の混淆形であろう、としているが、これは ᄉᆞ랑ᄒᆞᆷ- > ᄉᆞ랑홈- の活用形として［ᄉᆞ랑홈-아#이-다］と分析すべきであろう。中期語で「도와」（助）に「도아」という語形との揺れが見られるのと同様に「ᄉᆞ랑호왜라」と「ᄉᆞ랑호애라」が揺れを見せているものと考えられる。

① “(일운 일 업수믄) ᄆᆞᅀᆞᆯ 몯 치자배라”（成果が無いのは）心を自制できないからだ

② “ᄆᆞᅀᆞᆯ 몯 치자바 (일운 일 업수라)” 心を自制できず（成果が無い）

このように、例えば（5a）の「이셰라（이셔+이라）」ならば日本語では「て」や「から」を用いて直訳的に「あるからだ」「あってのことだ」「あってね」等と訳しても自然であるが、背景的理由を説明する「ノダ」文を利用し「あるのだ」等と訳す事もできる。一方、現代朝鮮語に訳す場合は、特にこのように主語（主部）が省略された分裂文を訳す場合、繋辞「이-」を用いて「있어서야」等とするよりは「있어서 그래」等と訳す方がより自然であろう。

以上、本章で見たような「分裂文」の「-에라」の存在は、本稿の主題とする所謂「感嘆」の「-에라」とは全く別物として、従来からよく知られて来た。管見の限り、従来はこれらが同音異義の関係にある事すら、特に注意されては来なかったようである。本稿は次の第４章において、これらが実は連続的である事を示す。

４．所謂「感嘆」の「–에라」

4.1. 「事情説明」の「–에라」

従来「感嘆」の「-에라」は完了の先語末語尾「-어-」に繋辞「이-」がついたものと説明される事が多かったが、既に述べた通りこれは通常有り得ない形態素連続であり、そのままでは説として成立しない。本稿は、そうではなくこれが「-어」理由節に繋辞「이-」がついたものであり、第３章で見た「分裂文」の「-에라」と連続的である事を指摘する。

この「-에라」は理由節に繋辞「이-」がついただけで、主節にあたる核心部分が明示化されない一種の「省略文」である。現代日本語や現代朝鮮語で考えれば、だいたい以下のような構造の「省略文」に相当するものと考えれば良い。

（6）a. 遅刻しちゃって{さ/ね/な/よ/…}。
　　＝（実は）遅刻しちゃって、（今こうなってるわけ）さ。
　　b. 遅刻しちゃってですね。

（7）a. 지각해 버려서 {이래/그래}.
　　b. 지각해 버려서 {말/문제/이러고 있는 거} 이야.
　　c. 지각해 버려서요.

つまり一言で言えば、このような構造を持つ「-에라」の意味とは、現代語の類似の構造を持つ「(내가) ~어서 그래」「~어서 말이야」等に近い意味だという事である。これらは「理由・事情・わけ」等を言う構文であるため、現代語に翻訳するにあたっては「실은」（実は）といった副詞や日本語の「背景事情」を説明する「ノダ」文の意味ともよく親和する。

以上の構造的理解に基づき、本稿ではこの「-에라」の意味を「感嘆」ではなく「事情説明」の「-에라」という用語で規定する事にし、その用法を以下の①～④に分類する。

「事情説明」の「-에라」の４つの用法（所謂「感嘆」の「-에라」）

①【前置き・背景事情】　何か言う前に、予め背景事情を言っておき、理解を求める。
（自身の言動の背景事情を説明し、理解を求める。）
②【お願い・要請】　事情・わけを訴える事で、暗に「お願い・要請」をする。
③【困惑・相談】　事情・わけを訴えて、「困惑・当惑している事」を伝える。
④【あいさつ言葉】　「ありがとう」「おめでとう」等の定型句を形成する。

①の用法が最も基本的であり、その他の用法は①から拡張したものと考えて良い。これらは全て連続的であり明確な境界線を引くことは難しいが、このようなカテゴリの存在自体はかなり明確に認められる。

「事情説明」の「-에라」は「省略文」であるからこそ、省略された部分には「言わずとも察してくれ」と聞き手に促す働きかけがあり、その結果、志部（1982：18）の言う「相手に対する話手自身についての現状の説明から，さらに強く訴えに至る」ような用法や이승희（1996：40）の言う「要請しようとする場面」での用法、更には従来考えられてきた「感嘆」や「詠嘆」とも取れるようなニュアンスを持つようになるわけである。しかし、これを単に「感嘆」と説明するのではあまりに大雑把過ぎて、上記①～④のようなこの形式特有の意味・用法の理解を逃す事になる事は言うまでもない。

また志部（1982）で指摘された通り、この「-에라」は必ず「話者自身の状態」を表す表現に用いられるという点も今一度確認しておこう。つまり、典型的には主語が１人称であるというある種の人称制約があり、また典型的には形容詞や存在詞、心理動詞等の状態性用言に接続するという事である。ただしこの人称制約は（１人称の「-오-」等の場合と同様に）厳密に統語的な主語に１人称だけを要求するようなものではなく、また4.4節（③【困惑・相談】の用法）で確認するように実際には形容詞や状態動詞だけでなく変化動詞等に接続する例も見られるが、いずれにせよ、変化の結果状態を表す事で結局は必ず「話者自身の状態」を表す表現となっている点は重要である。もちろん「分裂文」の「-에라」の場合には、こうした「話者自身の状態」の表現に限るなどという制約は特に無い。

以下では、①～④の実例を順に検討して行く。

4.2.　①前置き・背景事情

最も基礎的な用法となるのが①【前置き・背景事情】の用法である。その中でも、予め一言「事情説明」をしておくことで、その後言おうとしている事の理解を求めようとする【前置き】の用法が最も典型的であると言える。

①【前置き・背景事情】の用法
何かを言う前に、予め背景事情を言っておいて理解を求める。
（自身の言動の背景事情を説明し、理解を求める。）

「実は～」「～から言うのだが」「～ものでね」「～のだが」「～て、こうしているのです」「～てですね」
“실은~”, “-어서 말인데/말이야”, “-어서（그러는데/이래）요”

以下の【前置き】の用例を見よう。

(8) a.〔漢〕뎜도 ᄒᆞ마 다ᄃᆞᄅᆞ리로다. 우리 므슴 음식을 머거ᅀᅡ 됴ᄒᆞᆯ고? ―〔高〕우리 고렷 사ᄅᆞᄆᆞᆫ 즌 국슈 머기 닉디 몯ᄒᆞ얘라. 우리 ᄆᆞᄅᆞ니 머구ᄃᆡ 엇더ᄒᆞ뇨?(〔漢〕店子待到也，咱們喫些甚麼茶飯好？〔高〕我高麗人不慣喫濕麵，咱們則喫乾的如何？)〈飜老上60b〉

［漢］宿場にもすぐ着きそうだ。さて何を食べたらよいだろう？ ―［高］私ら高麗人は汁のある麺は食べ慣れてないから言うんだが、汁気の無いのを食べるのはどうだい？

(「実は食べ慣れてないんだが」，“익숙하지 못해서 그러는데”)

b. 王이 드르시고 눈므를 흘리며 니ᄅᆞ샤ᄃᆡ “나ᄂᆞᆫ 드로니 ‘어버ᅀᅵ 몯 ᄀᆞᄌᆞᆫ 子息은 어딘 이를 ᄇᆡ호디 몯ᄒᆞᆯᄊᆡ 어버ᅀᅵ 일후믈 더러ᄇᆡᄂᆞ다’ ᄒᆞᄂᆞ니, 나거든 ᄯᅡ해 무더ᄇᆞ료ᄃᆡ ᄒᆞ리이다.”

夫人이 ᄉᆞᆯᄫᆞᄃᆡ “大王ㅅ 말ᄊᆞ미ᅀᅡ 올커신마ᄅᆞᆫ 내 ᄠᅳ데 몯 마재이다. 아ᄃᆞ리어든 일후믈 孝子ㅣ라 ᄒᆞ고 ᄯᆞ리어든 일후믈 孝養이라 호ᄃᆡ 엇더ᄒᆞ니잇고?”〈月釋8：96b-97a〉

王は話を聞き、涙を流して仰るに「私の聞く所、両親の揃わない子供は正しい道理を学べないため、両親の名を汚す」というから、生まれたら土に埋めてしまっては（どうか）と思われます」。夫人が申し上げるに「大王のお言葉は正しいのですが、私の意には合わないのです。息子なら名を孝子とし、娘なら名を孝養とするのはいかがですか？」

(「合わなくて言うのですが」，“안 맞아서 그러는데요”)

c.〔漢〕쥬ᄉᆡᆫ 형님하, ᄯᅩ ᄒᆞᆫ 마리 이셰이다. 사ᄅᆞᆷ 머글 거슨 안직 져그나 잇거니와 이 ᄆᆞᆯ ᄃᆞᆯᄒᆞᆫ ᄯᅩ 엇디ᄒᆞ려뇨? 이ᄆᆡ셔 져기 딥과 콩을 논힐훠 주ᄃᆡ 엇더ᄒᆞᆫ고?（主人家哥，又有一句話。人喫的且有些箇，這馬們却怎生？一發那與些草料如何？）< 飜老上55b>

［漢］ご主人、実はもうひとつお願いがあってですね、人が食べるものはとりあえず少しはあるとして、この馬どもはどうしたもんでしょう？ついでなんで飼い葉を少し分けてもらえませんかね？

(「お願いがあるんですが」，“부탁이 있어서 그러는데요”)

d. 여슷 가짓 罪ᄂᆞᆫ ᄒᆞ나핸 겨집 出家케 ᄒᆞ야 부텻 正法이 五百 ᄒᆡ 滅ᄒᆞ긔 호미오, 둘헨 부톄 둥 알패라 ᄒᆞ샤 믈 가져 오라 ᄒᆞ야시ᄂᆞᆯ 아니 받ᄌᆞ보미오 …（又迦葉以六罪責之。一聽女人出家。使佛正法滅五百歲。二佛示脊痛須水不給。〈行蹟：37a24〉）〈釋詳24：2b〉

六つの罪とは、一つ目は女を出家させて仏の正法が五百年の間、滅するようにすることであり、二つ目は仏が背中が痛いからと仰って水を持って来いと仰ったのに差し上げない事であり、…

(「背中が痛いのだ」，“등이 아파서 말인데”)

e. 내 져기 ᄃᆡ고리 앏프며 머리도 어즐ᄒᆞ예라. 의원 청ᄒᆞ야다가 ᄆᆡᆨ 자펴 보아지라（我有些腦痛頭眩。 請太醫來胗後脈息,）〈飜老下39b〉

私は少し頭痛がして目眩もするのだが、医者を呼んで来て脈を看てもらいたい。

(「目眩もするから言うのだが」，“머리도 어찔해서 말인데”)

例えば（8a）の例に対する訳一つを取っても、前述の通り、以下のように様々な訳が考えられる。逆に言えば、こういった現代日本語、現代朝鮮語の意味に相当する中期語の表現として

ぴったりなのが「-에라」だというわけである。

1．できるだけ「-어+이라」という構造に忠実な訳として
「食べ慣れてなくてさ」「익숙하지 못해서 말이야（말인데）」
2．もう少し意味を詳細に表現した訳として
「食べ慣れてないから言うのだが」「익숙하지 못해서 그러는데」
3．同様に「背景事情」を説明する日本語の「ノダ文」を利用して
「食べ慣れてないのだが」

以下本稿では、こうした理論的枠組に基づき、自然さも考慮しつつ柔軟に多様な訳を試みるが、一々全てのパターンを示す事はしない。

典型例としてまず【前置き】の用法を紹介したが、次の例のように後から「事情説明」を付加する【後付け】も当然可能であり、両者の用法に本質的な違いは無い。

(9) 그듸를 여희유메 뉘 누니 더우리오 / 將次ㅅ 늘구메 病이 모매 버므러셰라（別君誰暖眼將老病纏身）〈杜詩23：56a〉
あなたと別れたら、一体他の誰が、私に暖かい眼を向けてくれるだろう？ / 老いゆくに病がこの身にまとわりついているからこんな事を言うのだが。
（「**病がまとわりついているものでね。**」，“**들러붙어 있어서 이런다**”）

また「何かを言う前に」とした部分は、以下の例のように言語行為でなく「行動」であっても良い。つまり、より一般化した説明としては「自身の言動の背景事情を説明し、理解を求める」といった説明になるわけである。

(10)a. 優婆掬多尊者ㅣ 一萬 八千 阿羅漢 ᄃᆞ리고 오나ᄂᆞᆯ, 王이 臣下ㅣ며 眷屬 ᄃᆞ리고 尊者ᄭᅴ가 밥 받ᄌᆞᆸ고 ᄡᅡ해 업데여 禮數ᄒᆞ고 ᄭᅮ러 合掌ᄒᆞ야 닐오ᄃᆡ “내 閻浮提예 爲頭ᄒᆞᆫ 王이 ᄃᆞ외요ᄆᆞᆫ 깃브디 아니ᄒᆞ고 오ᄂᆞᆯ 尊者 보ᅀᆞ보니 깃부미 그지 업서이다” ᄒᆞ고 尊者ᄅᆞᆯ 請ᄒᆞ야 城ᄋᆡ 드러 種種앳 座 ᄆᆡᆼᄀᆞᆯ오 尊者 올여 안치고… （時尊者優波崛多。將一萬八千阿羅漢衆。逕至王國。王大歡喜踊躍。卽脫瓔珞價直千萬。而授與之。王將諸大臣眷屬。卽出往尊者所。卽爲下食。五體投地向彼作禮。長跪合掌而作是言。我今領此閻浮提。受於王位不以爲喜。今睹尊者踊躍無量。如來弟子乃能如是。如睹於佛。時王請尊者優波崛多入城。設種種座請尊者就坐。…〈釋迦：79b06〉）〈釋詳24：34a-b〉
優婆掬多尊者が一萬八千の阿羅漢をつれて来たが、王は臣下や眷屬をつれて尊者のもとへ出向き、食べ物を捧げ、ひれ伏して礼拝し、跪いて合掌して「私は閻浮提の頂点に立つ王になった事は嬉しくありません。今尊者にお会いした事がこの上無く嬉しいのです」と言い、尊者を城にまねき入れ、種々の座を作って尊者に座って頂き、・・・
（「**この上無く嬉しくて、今こうしております。**」，“**기쁘기 짝이 없어서 이러고 있습니다**”）

a'.…ᄉᆞᆯ보ᄃᆡ “내 閻浮提ᄅᆞᆯ 거느려 王 ᄃᆞ외야도 깃브디 아니ᄒᆞ고 오ᄂᆞᆯ 尊者ᄅᆞᆯ 보ᅀᆞᄫᆞ니 踊躍호미 그지업서이다. 如來ㅅ 弟子ㅣ 이러ᄃᆞ록 ᄒᆞ시니 부텨 보ᅀᆞᄫᆞᆫ ᄃᆞᆺᄒᆞ야이다.” 〈月釋25：96a〉

「私は閻浮提を支配し王になっても嬉しくありません。今尊者にお会いした事がこの上無く嬉しいのです。如来のお弟子様がかくも立派でいらっしゃるので、仏にお会いしたような気持ちなのです。」と申し上げ

b. 太后ㅣ‘내 罪라’ᄒᆞ샤 起居를 즐기디 아니ᄒᆞ샤 그 ᄯᅴ 原陵을 뵈ᄉᆞ오려 ᄒᆞ더시니, ᄌᆞ개‘간슈호ᄆᆞᆯ 조심 몯호라’ᄒᆞ야‘陵室에 뵈ᄉᆞ오ᄆᆞᆯ 붓그레라’ᄒᆞ시고 아니 가시니라（太后ㅣ 以爲己過ㅣ라ᄒᆞ샤 起居ᄅᆞᆯ 不歡ᄒᆞ샤 時예 當謁原陵이러시니 自引守備不愼ᄒᆞ야 慚見陵園이라ᄒᆞ시고 遂不行ᄒᆞ시니라）〈內訓宣2上55a-b〉

太后は「私の罪だ」と仰って何をしてもお楽しみにならず、もともとその時は原陵にお目見えしようとなさっていたが、ご自身が「監督が行き届かなかった」「陵室にお目見えするのが恥ずかしくて」と仰って、行かれなかったのである。

c. 君子ᄭᅴ 뫼셔 안자실ᄉᆡ 만일 告ᄒᆞᆯ 이 이셔 ᄀᆞᆯ오ᄃᆡ“져근덛 한가ᄒᆞ여든 願컨댄 ᄉᆞᆯ올 일이 이셰라”커든 곧 왼 녁키며 올ᄒᆞᆫ 녁크로 ᄎᆡ여셔 기ᄃᆞᆯ올디니라（侍坐於君子ᄒᆞᆯᄉᆡ 若有告者ㅣ 曰少閒이어든 願有復也ㅣ라커든 則左右屛而侍니라）〈小學2：61b-62a〉

君子に仕え座っている時、もし告げる者があって「少々お時間があれば、申し上げたい事があるのですが」と言う場合は、すぐに左右に退いて待たなければならない。
（「申し上げたい事があって、今こうしております。」，“아뢸 일이 있어서 이러고 있습니다”）

（10a）は「相手を特別に厚遇する事」、（10b）は「お目見えしようとは思いつつも結局行かない事」、（10c）は「上位の者に恐れ多くも声をかけ、お邪魔している事」に対して、「事情」をきちんと説明することで、理解を求める言い方なのだと解釈される。

また参考までに、第３章で「分裂文」の例として示した（5a,b）等の例もこの①【前置き・背景情報】の用法と連続していると考えられる。

4.3. ②お願い・要請

前節にまとめた①の用法は、背景事情を説明する事で「自身の言動への背景的理解を求める」用法であった。一方この②は、背景事情を訴えることで、「直接は言わずにお願いをする」用法である。例えば以下の例は①の用法と分類するのがよさそうだが、②の用法への連続性を理解するのに良い例である。

（11） 나도 머릴 울워러“셜버이다, 救ᄒᆞ쇼셔！”비ᄉᆞ보니（予乃仰首哀號乞垂救度〈釋通：15c10〉）〈月釋2：52a〉

私も頭をあげ「苦しいのです、お救け下さい」と乞うたところ
（「苦しくて言っているのです」，“괴로워서 이래요”）

誰が見ても助けを求めて苦しんでいる状況では、「셜버이다, 救ᄒᆞ쇼셔！」と完全に言わなくても、単に「셜버이다！」（苦しいんです！苦しくて言ってるんです！）とだけ言えば「救けて下さい」というお願い・要請だという事は言わずとも分かる。これは、例えば「ちょっと暑いんですけど。」という省略文が、「何とかしてくれ」という核心（主節）部分を言わなくても、そのようにお願い・要請の言葉と理解される事と全く同じである。つまり、状況からあまりに明白な「お願い・要請」は、「-에라」で事情説明だけして、核心部分は言わずとも察してくれ、

という用法である。

> ②【お願い・要請】の用法
> 事情・わけを訴える事で、暗に「お願い・要請」をする。
>
> 「(頼む、) ～のだ！」「(お願い、) ～てさ。」
> 「(実は) ～て…」「～ますから！ (お願いです！)」
> "(제발/부탁이야,) -어서 말이야！"
> "(실은) -어서 (부탁하는데) 요"

以下の例を見よう。

(12) a. 羅漢이 무로ᄃᆡ "엇던 願을 ᄒᆞᄂᆞᆫ다?" 光目이 對答호ᄃᆡ "내(L) 어미 업슨 나래 福을 보타 救ᄒᆞ야 ᄲᅡᅀᅧᄃᆡ 내 어미 아모ᄃᆡ 냇ᄂᆞᆫ디 몰래이다." (羅漢問之：『欲願何等？』光目答言：『我以母亡之日，資福救拔，未知我母生處何趣？』〈地藏：780c20〉)〈月釋21：53a〉

羅漢が尋ねるに「どんな願いがあるのだ？ (叶えてやるからお前の望みを言ってみなさい。)」光目が答えるに「実は、私の母が亡くなった日に福を資して救い出そうとしたのですが、母が (死後の世界のうち) 一体どこに行っているのか、分からないのです。(教えてくれませんか)」

(「実は分からなくて…」, "(실은) 몰라서요.")

b. ᄌᆞ조 도ᄌᆞᆨ 맛나아 자바 가려 커든 곧 슬피 우러 닐오ᄃᆡ "늘근 어미 이셰라" ᄒᆞ야ᄃᆞᆫ 도ᄌᆞ기 感動ᄒᆞ야 수믄 길흘 ᄀᆞᄅᆞ치리도 잇더라 (數遇賊 或劫欲將去 輒涕泣求哀 言有老母 詞氣愿款 有足感動人者 賊不忍害 或指避兵之方)〈三綱孝6〉

しばしば盗賊に出くわしたが、捕まえて行こうとすると悲しく泣いて言うに「(お願いします、) 老いた母がいるのです」と言うと、盗賊は感動して隠れて行く道を教えてくれる者まであった。

("제발, 늙은 어머니가 있어서 말입니다！")

c. 祿山ᄋᆡ 將軍 尹子奇 睢陽애 와 티거늘 許遠이 張巡의그에 '時急ᄒᆞ얘라' 니ᄅᆞ니 張巡이 兵馬 가져오나ᄂᆞᆯ (祿山將尹子奇 寇睢陽 許遠告急于張巡 巡自寧陵 引兵入)〈三綱忠14〉

安禄山の将軍尹子奇が睢陽に攻めて来たため、許遠が張巡に「(たのむ、) 緊急なのだ」と伝えると張巡が兵を率いてやってきたが

("(부탁이다,) 긴급사태라서 말이다！")

d. 兵馬ㅣ 우ᅀᅥ 닐오ᄃᆡ "네 미친 노민다? 네 命도 保全 몯ᄒᆞ리니 네 님금을 무듫다?" 絳山이 닐오ᄃᆡ "사ᄅᆞ미 各各 님금을 셤기ᄂᆞ니 ᄎᆞ마 님긊 ᄲᅧᆯ 士卒 ᄒᆞᆫ가지로 더뎌 두리여? 내 님금 묻ᄌᆞᄇᆞᆫ 後에ᅀᅡ 寸寸이 사ᄒᆞ라도 ᄎᆞᆨ디 아니ᄒᆞ얘라." 兵馬ㅣ 제 將軍의그에 닐어늘 그 將軍이 닐오ᄃᆡ "奇特ᄒᆞᆫ 男子ㅣ로다" 그리ᄒᆞ라 ᄒᆞ야ᄂᆞᆯ (兵笑曰 若狂者邪 汝命且不能保 能瘞而君邪 絳山曰 人各事其君 吾君有天下十餘年 功業不終 身死社稷 忍使暴露遺骸 與士卒等邪 吾果瘞吾君 後雖寸斬不恨矣 兵以告其帥奔盞 曰「此奇男子也」許之)〈三綱忠27〉

兵士が笑って言うに「頭がおかしいのか？お前の命も保ち得ないのに、お前の主君を

埋葬できるとでも？」絳山が答えるに「人はそれぞれ主君に仕えるもの、どうして主君の骨を士卒と同じに放っておけようか？私は、主君をお埋めした後なら、ばらばらに剖まれても恨まぬゆえ。（だからお願いだ、たのむ）」兵士が自分の将軍に伝えると、その将軍は「奇特な男よ」と言って許可した。
（「恨みませんから。（お願いします）」）

特に（12c）の例などは、「急を告げ救援を求める」という意味を表す漢文の「告急」[9]の意味を、「‘時急ᄒᆞ얘라’ ᄂᆡᄅᆞᄂᆡ」というたった一言の引用だけでシンプルに訳している。一方で現代日本語や現代朝鮮語に訳す場合は、「たのむ」や「부탁이다」等の言葉を加える等しなければ、なかなか文脈に合う十分な訳にはならない。これはつまり、「-에라」の用法としてこの②【お願い・要請】の用法が、かなり定着していた事を示しているものと考えられる。

4.4. ③困惑・相談

②の用法は、背景事情を訴えることで「直接は言わずにお願いをする」用法であった。一方③【困惑・相談】の用法は、背景事情を訴えるが、しかし為す術をしらず「困惑・当惑」している事を表現する用法である。「一体どうしたものかね、一緒に考えてよ」という「お願い・要請」のニュアンスにつながるという点では、②とも連続的である。

「困っているんです」「困ったなあ」等と相手に困惑・当惑を伝える言葉は、結局相手に解決を期待する度合いによって、②と③の間で連続性をなす。つまり、どう解決して欲しいか、相手に期待する所が明確な場合は②「お願い・要請」となり、逆にどのように解決すれば良いかも分からず相手への期待も不明確だが、一緒に考えて欲しいという場合には③「相談」であり、更にはそもそも特定の相手に向けられない場合は、「困惑の詠嘆」のようなニュアンスになる。

(13) a. 寒くてさ。（窓閉めてくれる？）　“추워서 말이야.”　（②お願い・要請）
　　b. 寒くてさ。（どうしたらいいかな？）“추워서 말이야.”　（③相談）
　　c. 寒くてなあ。（困ったものだ）　“추워서 말이야.”　（③困惑の詠嘆）

この「困惑の詠嘆」のようなニュアンスが、従来の「感嘆」という理解に最も接近しているようだが、その内実はあくまで「-어서 문제야」「-어서 어쩌지?」というニュアンスの「為す術を知らぬ困惑・当惑」であるという理解は、逸してはならない。

③【困惑・相談】の用法
事情・わけを訴えて、「困惑・当惑している事」を伝える。
「困ったものだ」という「詠嘆」にもつながる。）

「（それが / 実は）～のだ」「（それが / 実は）～てなあ / てねえ」（問題だ / 困った / どうしよう / どうしたものか）
“（그게/실은）~어서요”, “（그게/실은）~어서 말이야/문제야”, “-어서 어떡해/어쩌지?”

[9] 『汉语大词典』【告急】報告情況緊急，請求救助。

次の例を見よう。

(14) a. 獄主ㅣ 目連이ᄃᆞ려 무로ᄃᆡ “어마니ᄆᆞᆯ 아라보리로소니잇가?” 目連이 닐오ᄃᆡ “몰라보애라.” (問：『師還識孃否？』目連答言：『不識孃。』〈目連〉)〈月釋23：86b〉
地獄の主が目連に尋ねるに「母上がどれか、見てわかりそうですか？」目連が答えるに「それが、わからないんだよ」
「それが、わからなくてねえ」, “그게, 몰라봐서 문제야”)

b. 鄭老ㅣ 모미 지즈로 내조치이니 / 台州예셔 音信이 비르수 傳ᄒᆞ야 오ᄂᆞ다 //
ᄭᅩᆺ 시냇 구ᄇᆡ예셔 녀름지ᅀᅵᄒᆞ고 / 바ᄅᆞᆯ 구ᄅᆞᆷ ᄀᆞᄉᆡ 病ᄒᆞ야 누엣도다 //
世上애셔 ᄒᆞ마 션ᄇᆡᄅᆞᆯ 疎히 ᄒᆞᄂᆞ니 / 사ᄅᆞᄆᆞᆫ 오히려 술 살 도ᄂᆞᆯ 주놋다 //
牛斗星 ᄇᆞ라오ᄆᆞᆯ ᄒᆞᆫ갓 잇비 ᄒᆞ것다 / 龍泉劍 파 내욜 혜유미 업세라
(鄭老身仍竄 台州信始傳 // 爲農山澗曲 臥病海雲邊 // 世已疎儒素 人猶乞酒錢 // 徒勞望牛斗 無計斸龍泉)〈杜詩21：41b-42a〉
鄭虔老人はいまだに台州へと追われた身だが、今はじめて手紙が伝えられて来た。// (手紙によれば彼は) 山の谷間で畑を耕し、海の雲間で病に臥しているという。// 世ではすでに儒者を疎むようになったが、人々は変わらず彼に酒を買う金を与えているようだ。// おや、牛斗星を眺めるのに徒に時を過ごしてしまったらしい。だが龍泉剣を掘り出す (その伝説のように彼を救い出す) 策も無くてなあ (困ったものだ)。
(“없어서 문제야”, “없어서 어쩌지?”)

c. 사호ᄆᆞᆫ 어느 제 解散ᄒᆞᆯ고? 도라갈 ᄇᆡᆺ 돗기 ᄆᆞᆯ근 沔水에 阻隔ᄒᆞ얘라 (戰伐何當解 歸帆阻淸沔)〈杜詩24：35b〉
戦争はいつ終わるのだろうか？帰ろうとする舟の帆が、澄んだ沔水の流れに阻まれて困ったものだ。
(「阻まれてしまってどうしたものか」, “막혀버려서 어쩌지?”)

d. 時節을 嗟嘆호니 藥 히미 엷고 나그내 ᄃᆞ외야쇼매 시드러운 病이 이레라 (嘆時藥力薄 爲客羸瘵成【上句ᄂᆞᆫ 言憂時之亂故로 雖飮藥而病不愈也ㅣ라】)〈杜詩25：33a〉
時世を嘆いていると、薬の効果も薄いし、旅の間にすっかり病弱になってしまってね。

e. 곧 무러 니ᄅᆞ샤ᄃᆡ “ᄡᅳ리 니그녀 몯ᄒᆞ녀?” 能이 ᄉᆞᆯ오ᄃᆡ “ᄡᆞᆯ 니고미 오라ᄃᆡ 오히려 ᄀᆞᆯᄒᆡ리 업세이다” (卽問曰ᄒᆞ샤ᄃᆡ 米熟也未아 能이 曰호ᄃᆡ 未熟久矣로ᄃᆡ 猶欠篩在ᄒᆞ이다)〈六祖上27b〉
すぐに問うて仰るに「米は実ったか？」能が申し上げるに「米は実って久しいのだが、いまだに篩にかける (籾摺りをする) 者がいなくてなあ (困った)。」
(「いないんだよ」, “매갈이하는 사람이 없어서 문제야.”)

(15) a. 獄主ㅣ 나와 닐오ᄃᆡ “ᄒᆞᆫ 靑提夫人이 이셔 닐오ᄃᆡ ‘내 아ᄃᆞ리 出家 아니ᄒᆞ고 일후미 大目犍連 아니라’ ᄒᆞ더이다” 目連이 닐오ᄃᆡ “‘몰래라’ ᄒᆞ샤미 올ᄒᆞ니 父母 겨싣 젯 일후ᄆᆞᆫ 羅卜이라니 父母 업거시ᅀᅡ 부텻긔 가ᅀᆞᄫᅡ 出家호니 부톄 일훔 ᄀᆞᄅᆞ샤 大目犍連이라 ᄒᆞ시니라” (獄主出來報師 有一靑提夫人 道兒不出家 不名大目犍連 目連答言 獄主大慈大悲 信知道不識兒 父母在日 小名羅卜 爺孃死後 投狒出家 得佛改名 大目犍連〈目連〉)〈月釋23：85b〉
地獄の主が出てきて言うには「青提夫人という者がいるが、『私の息子は出家などし

ていないし、名前も大目犍連などではない』と言っているぞ」。目連（大目犍連）が答えるに「『思い出せなくてどうしましょう（몰라서 어쩌죠?)』とおっしゃる（『知らない』とお困りになる）のも当然だ。父母がご存命のころの私の名は羅卜だった。父母が亡くなった後にブッダのもとに行って出家したのであり、ブッダが名を大目犍連とかえて下さったのだ。」

b. 므슷 일로 寒山은 머리 노뇨물 즐겨 이제 “온(R) 길흘 니제라” ᄒᆞ야시뇨（何事로 寒山은 愛遠遊ᄒᆞ야 如今에 忘却來時路ㅣ라 ᄒᆞ야시뇨）〈南明上28b〉

なぜ寒山は遠く旅を楽しみ、今（故郷に戻って来た事に気づかず）「来た道を忘れてしまってなあ」と仰ったのか？

特にこの（15a,b）の例では、間接引用とも取れる程のシンプルな引用の中で「-에라」により他者の「困惑」を表現している事から、この③【困惑】の用法が、一つの用法としてかなり定着していた事を窺い知る事ができる。

また、ここでは、特に（14d）（15b）のような「変化を表す動詞」の例が目立つ。多くの先行研究で指摘される通り「-에라」は基本的には形容詞を中心とする状態性用言に接続するのであり、このような例は数の上では稀であるが、それでも「病弱になっている」「忘れてしまっている」という「話者自身の状態」の表現であるという点では例外とはならない。

以下の例も同様に③【困惑】の用法に分類できるが、同時に直後の質問の背景事情を予め伝えて理解を求める①【前置き】と解釈する事もできる。①と③の連続性を示す例である。

(16) a. 모든 聲聞衆에 부톄 니ᄅᆞ샤ᄃᆡ ‘나ᄅᆞᆯ 第一’이라 커신마ᄅᆞᆫ 내 이제 내 智예 疑惑ᄒᆞ야 아디 몯ᄒᆞ예이다. 이 究竟法이잇가, 이 行ᄒᆞ시던 道ㅣ잇가?（於諸聲聞衆에 佛說我ᄅᆞᆯ 第一이라커신마ᄅᆞᆫ 我今自於智예 疑惑ᄒᆞ야 不能了ᄒᆞ예이다 爲是究竟法이잇가 爲是所行道ㅣ잇가）〈法華1：164b〉

諸々の声聞衆にブッダが仰るに「我を第一とせよ」と仰いましたが、私は今、自分自身の智に疑いが生じてわからないのです。これは、究竟法なのですか、それとも行われた所の道なのですか？

a'. … 내 이제 내 智에 疑惑ᄒᆞ야 아디 몯ᄒᆞ여이다 …（我今自於智예 疑惑ᄒᆞ야 不能了ᄒᆞ예이다）〈改法1：51b〉

また以下の例は、以上の【困惑・相談】とは若干異なるニュアンスのようにも思われるが、一旦ここに分類しておく。

(17) 目連이 무로ᄃᆡ “어마니미 이제 가히 모미 ᄃᆞ외야 이셔 受苦호미 地獄과 엇더니잇고?” 그 가히 닐오ᄃᆡ “내 긴 劫에 가히 모미 ᄃᆞ외야 사ᄅᆞ미 똥을 머구믄 ᄒᆞ려니와 地獄 소리 드로ᄆᆞᆯ 두레라”（目連問母 母今作狗身之苦 何如地獄之苦 狗語目連 我乍可長劫作狗身 喫人不淨 我怕聞地獄之聲）〈月釋23：91a〉

目連が尋ねるに「母上は今、犬の身となっているが、その苦しみは地獄と比べて如何ですか？」その犬が答えるに「私は永久に犬の身になって人糞を食らうのはまだいい、それより地獄の声を聞くのはもう怖くてねえ。（比較にならないよ）」

(“두려워서 {말이야/어떡해/말도 못해} ！”, “두려워해서 {말이야/어떡해}”)

この例は一種の選択疑問文への回答である事から、「困ったなあ」「どうしたものか」という「為す術を知らぬ困惑」というよりは、むしろ「怖くてもう、ねえ！」（比較にならないよ）というような、「答えは言わずとも察してくれ」というニュアンスであった可能性も考えられる。暫定的に一種の【困惑】の用例と分類しておく事はできそうであるが、現時点では類例らしきものを見出す事ができていないため、正確な分類、確実な意味把握が難しい。

なお、参考までに第３章で「分裂文」の例として示した（5c,d）の例等も、この③【困惑・相談】の用法と連続していると考えられる。

4.5. ④あいさつ言葉

この用法は、「ありがとう」「おめでとう」等の定型的なあいさつ言葉を形成するものであるが、①の「自身の言動の背景事情を説明し、理解を求める」用法に由来するものと考えられる。「私は嬉しいんだ」「私は嬉くて、今こうしているんだ」と、相手から見えている自身の言動や表情等の背景事情を説明する事で、「表面的な言動だけでなく、本心から喜んでいるのだ」というニュアンスを帯びた喜びの表現となり、これが感謝・祝賀の意を表す定型句を形成したというわけである。

④【あいさつ言葉】 **「ありがとう」「おめでとう」等の定型句を形成する。** **「今私がこうしているのは、私の喜びが行動に表れているのだ」** **（→「表面的な言動だけでなく、本心から喜んでいるのだ」のニュアンス）** **「うれしくてね」「うれしいんだ」　→「ありがとう」「おめでとう」** **“내가 기뻐서（이래）요”　→“감사합니다”, “축하합니다”**

以下の例から、中期朝鮮語で「ありがとう」「おめでとう」は、共に「깃게라」「깃게이다」と表現された事が分かる。

(18) a. 만히 깃게이다 누의님하（多謝姐姐）〈飜朴上48b〉
どうもありがとうございます、お姉さま。

b. 됴토다 됴토다 ᄀᆞ장 깃게이다（好，好。多謝多謝。）〈飜老上55b〉
いいね、いいね。どうもありがとうございます。

c. 慶賀ᄂᆞᆫ 깃게라 ᄒᆞᆯ 씨라〈月釋12：2b〉
慶賀とは、「おめでとう」という意味である。

d. 賀禮ᄂᆞᆫ 깃ᄉᆞ바이다 ᄒᆞ야 禮數ᄒᆞᆯ 씨라〈釋詳11：30b〉
賀禮とは「おめでとうございます」と礼するという意味である。

e. 어믜 녁 아ᄉᆞᄆᆞᆯ ᄉᆞ랑티 아니ᄒᆞ면 오란 사도ᄂᆡ게 깃게라 슬헤라 됴쿠지 서르 시름 브리디 아니홈ᄆᆞᆯ 아랄디로다（母黨之親［乙］不能念之則 累世之姻［矣］休戚［厓］不相關［爲旀］慶吊［厓］不相問［乙］從可知矣［里奴多］）〈正俗11a-b〉
母方の親戚のことを考えなければ、交流の絶えて久しい親戚に「おめでとう」「お悔やみします」などの慶弔の事を互いに気にかけあわない、という事をここから知るべきである。

f. 싱원［生員］집도 몸 됴히 브리고 아ᄃᆞ리라 ᄒᆞ니 더옥 깃게라 ㅇ〈順天66 ①信川康氏

→順天金氏（母→娘）>
蔡生員の家でも（＝お前も）お産が上手くいって、息子だというから、嬉しくて、嬉しくてね。（「めでたい、めでたい。」,「おめでとう、おめでとう。」）

このような「あいさつ言葉」の形成過程を理解するにあたり、まず英語の I'm sorry という謝罪表現が参考になる。周知の通りこの表現は文字通りの意味は「私は残念な気持ちです」という「話者自身の感情表現」であるが、それが「ごめんなさい」という謝罪表現、つまり「聞き手に投げかける挨拶表現」として固定化している。これは、中期朝鮮語で「私は嬉しいです」という「話者自身の感情表現」が感謝や祝賀という「聞き手に投げかける挨拶表現」に転じたのと全く同じメカニズムによると考えられる。

また、モンゴル語で「ありがとう」を意味する bayarla-laa も文字通りの意味は「私は喜んでいる」「私は嬉しくなった」（中国語「我高興了」）という意味であり、「おめでとう」を意味する bayar hurgeye は「喜びを送ろう」という意味である[10]。前者の「感謝」表現は中期朝鮮語と全く同じ発想の表現であり、後者の「祝賀」表現もまた、自身の bayar（喜び）の表現であるという点が注目される。更には、満州語と同じツングース語族に属するエヴェンキ語では「ありがとう」を adda-ji-mi と言い、やはり文字通りの意味は「私は喜んでいる」「私は嬉しい」である[11]。少なくともモンゴル語、エヴェンキ語、中期朝鮮語という、地理的に近接した３言語で、全く同じ発想で「感謝」の挨拶表現を形成しているという事実は、注目に値する[12]。

５．発展的議論

5.1.　截断形「-에」

志部（1982：5f.）では、『飜譯老乞大』『陶山十二曲』（及び『順天金氏諺簡』）等に現れる「-에」[13]についても「-어이다」から ㅇ/ŋ/ が脱落した「-어이다」の「截断形」とみなし「-에라」と同列に扱った。本稿もまた、以下の検証を通してこれを支持するものである。

---

[10] モンゴル語の動詞 bayarla-「喜ぶ」は名詞 bayar「喜び」に派生接尾辞 -la- が接続した派生動詞であり、-laa は中国語の「了（le）」に相当するアスペクト接尾辞である。

[11] エヴェンキ語 adda-ji-mi は adda（喜ぶ）-ji（現在進行、現在の状態）-mi（１人称単数）と分析される。エヴェンキ語については、中国エヴェンキ語話者であるカリナ（卡麗娜）先生（韓国仁荷大学校韓国学研究所研究員）に詳細なご教示を頂いた。この場を借りて感謝申し上げたい。

[12] さらに、カリナ（卡麗娜）先生のご教示によれば、エヴェンキ語ではこの adda-ji-mi「私は喜んでいます」という表現を、「ありがとう」の意味だけでなく「おめでとう」という祝意を伝える場面でもやはり同様に使用するという。

bi si-ni surgul-dɯ ii-səə-dɯ-si adda-ji-mi.「入学おめでとう！」
（lit. 私はお前の［学校に入った事］に、喜んでいるよ。）

一方で「おめでとう」にあたる「祝賀」専用の言葉は「すぐには思い付かない」そうだが、よりエヴェンキ語をよく知るという御母堂にご確認頂いたところ、‘əggɯn-ə esuu-ji-mi’ と ‘baniglaa-ji-mi’ という２つの表現がある事をご教示頂いた。前者は前述したモンゴル語の「おめでとう」bayar hurgeye（lit. 喜びを送ろう）の直訳的表現であると言う（彼らの多くはモンゴル語にも堪能である）。一方後者は中国エヴェンキ族の標準方言であるホイ方言ではなくアルン方言の表現だと言う。これはあくまで「おめでとう」の意味であって「ありがとう」ではないとの事だが、興味深い事に、この動詞 baniglaa- の語根 √ banig- は、満州語で「ありがとう」を意味する baniha と語形が酷似している。こうした点の詳細については筆者の能力を超えるため、まずはカリナ先生の貴重なご教示を記録しておくにとどめ、詳細は今後の課題としたい。

[13] 本稿では簡潔のため「-에」の表記により、母音交替形「-애/에」等を全て代表する事とする。

これらは十分な量の用例が無いため正確な意味把握が難しい場合も多いが、その用法は全て第４章で整理した「-에라」の枠組みによって同様に理解する事ができ、特に区別すべき根拠は見出されない。以下にその分類を示す。

①【前置き・背景説明】

(19) a. 막종이 ᄒᆞ여 벼로예 인ᄂᆞᆫ 황모붇 보내소. 안즉 ᄡᆞᆯ 것 업세〈順天5 ⑨蔡無易→順川金氏（夫→妻）〉

マクチョン（奴婢の名）に言って、硯のところにある黄毛（イタチの尾の毛）筆を送ってくれ。当座に使うものが無くてね。（無いからこんなお願いをするのだが。）

b. 다시 ᄌᆞ식ᄃᆞ리나 ᄃᆞ리고 사다가 죽고져 ᄇᆞ라뇌. 이리 오니 셔올 하 그리오니 ᄀᆞ이업세〈順天152 ⑤信川康氏→順天金氏の夫（義母→婿）〉

もう一度子供らと一緒に暮らしながら死にたいと願っているのよ。こっちに来たらソウルがひどく懐かしいので、たまらなくてね。（だからこんな事を考えてしまうのよ。）

③【困惑・相談】

(20) a. 나ᄂᆞᆫ 됴히 완뇌마ᄂᆞᆫ 자내ᄅᆞᆯ 그리 셩티 몯ᄒᆞᆫ 거슬 두고 와 이시니 ᄒᆞᄅᆞ도 ᄆᆞ음 편ᄒᆞᆫ 저기 업세〈順天49 ⑨蔡無易→順川金氏（夫→妻）〉

私は無事に（こちらに）来ているが、きみを体調が悪いのに置いて来ているから、一日も心の安まる時が無くてね。（どうしたものか。どうしようもないが。）

b. 나ᄂᆞᆫ 즉시 갈 거시로ᄃᆡ 댱니ᄅᆞᆯ 반도 몯 바다시니 ᄂᆡ월 열ᄒᆞᆯ ᄡᅵ나 될가 시브니 민망ᄒᆞ예〈順天51 ⑨蔡無易→順川金氏（夫→妻）〉

私はすぐに行く予定だが、長利（穀物を貸した際の年利五割の利息）を半分も受け取れておらず、来月十日の時頃になるかと思うが、心配でね。（どうしたものかね。）

c. 이제ᄂᆞᆫ 엇던고? 엇디 나 이신 제나 그러티 몯ᄒᆞ고 애ᄃᆞ라ᄒᆞ뇌. 슈오긔 아바니미 잇거니, 내나 다ᄅᆞᆯ가커니와, 왼 ᄃᆡ 와셔ᄂᆞᆫ 아니 날 ᄆᆞᄋᆞ미 업세〈順天190 ⑨蔡無易→順川金氏（夫→妻）〉

今はどうだ？どうして私がいる時ではないのかと、やりきれないよ。シュオクのお父様がいるから、まあ私が別々な[14]だけかとは思うが、一人離れた所にいては、悪い事ばかり考えてしまってね。（困ったものだね）

④【あいさつ言葉】

(21) a. 애, 또 王가 형님이로괴여！ 오래 몯 보왜！（噯，却是王大哥。多時不見）〈飜老上17b〉）

あれ、こりゃまた王さんじゃないか。久しく会えませんで。（お久しぶり）

b. 져기 ᄒᆞ리다 ᄒᆞ니 깃게. 곤키야 엇딜고?〈順天141 ⑨蔡無易→順川金氏（夫→妻）〉

（手紙の冒頭）少しよくなったとの事、私も嬉しくてね。気だるいのはどうしたものかね。

（「よかったね」「おめでとう」“다행이다”，“축하한다”）

[14] 本文の「다ᄅᆞ-」は普通「異なる」と訳される語であるが、この語が「닫」（別々に）という語と単語家族を為す事を考慮し、文脈からここではむしろ「別々だ」という意味で使われているものと判断した。「別々だ」から「異なる」という意味への拡張は極めて自然である。

(21a) の例は、これだけの例からあまり確実な事は言えないが、「깃게라」「깃게이다」が「ありがとう」や「おめでとう」という聞き手に投げかける定型的な挨拶言葉になるのと同様の用法であるとみなされる。つまり、全身で再会の喜びを表現している自分について、「久しく会えなかったので、今これほどに再会の喜びを表現しているのだ」という事を、後半の核心部分は省略して言っているという訳である。

「陶山十二曲」にも「-에」の例が現れるが、次節で見る事にする。

5.2. 「陶山十二曲」と「鄭石歌」

本節では、以上の本稿の議論を基盤とし、解釈に一層の慎重さを要する２つの歌謡の用例を検討する。これらは文学の域においても重要性が高く、諸家による様々な解釈が試みられて来た。しかし文法研究の進展があったならば、当該部分の従来の解釈に対しても今一度、検証の必要が生じるであろう。

次の例は、16世紀の李退渓（李滉）による有名な「陶山十二曲」の例である。

(22) 幽蘭이 在谷ᄒᆞ니 自然이 듣디 됴해 / 白雲이 在山ᄒᆞ니 自然이 보디 됴해 / 이 듕에 彼美一人를 더옥 닛디 몯ᄒᆞ얘【一云 이 듕에 고온 ᄒᆞᆫ 니믈 더옥 닛디 몯ᄒᆞ뇌】〈陶山十二曲 第４曲〉

幽蘭は谷に在り、ありのままで芳しくてなのだが、（芳しくてなあ，듣기[15] 좋아서 말인데）/

白雲は山に在り、ありのままで麗しくてなのだが、（麗しくてなあ，보기 좋아서 말인데）/

この中にあって、かの素晴らしいお人が、なおさら忘れらなくてなあ。（잊지 못해서 {말이야/문제야/어쩌지}）

ここには３つの「-에」が現れる。最初の２つの「됴해」は①【前置き・背景説明】の用法、最後の「몯ᄒᆞ얘」は③【困惑・相談】の用法に近いと考えられるが、どれも核心部分を言葉にしない省略文であるため、それが「詠嘆」的なニュアンスを生じる。

この例は、自然を愛でつつ「허므리나 업고쟈〈第２曲〉」（せいぜい咎でも無きよう気をつけよう）、つまり「大それた事など考えず、静かに生きていよう」などと望んで暮らしているのに、しかし繊細かつ雄大なありのままの自然を前にすると、なぜか「かの素晴らしいお方（彼美一人）」が思い出されるのだよなあ、と「困った風な言い方」で詠嘆し、ある種の葛藤を表現していると解釈される。暗に「そのお方」の存在を大自然と同格に並べ、まるで天地の理そのものの中にあるような偉大な存在として称える事にもなる。「そのお方」とは或いは「王や主君」かもしれないし、或いは「朱子」かもしれないし、或いは「理想の王や聖人」かもしれない（cf. 서명희 2016：239ff.）。少なくとも歌詞の上では、歌い手や聞き手が各々自由に意中の人物、即ち自らの生を学問に捧げる動機の根源となるような人物をそこに想い浮かべられるようになっている。現代の歌の歌詞によく現れる「君」や「あの人」のようなものである。そ

[15] 香りをかぐことを「듣다」と表現するのは、日本語でも漢語「聞香」を訓じて「香ヲ聞ク」というのと同じ、漢語の直訳的表現と見られる。参考までに現代中国語では「音や話をきく」事を「聽（tīng）」と言い、「においをかぐ」事を「聞（wén）」と言う。

してその「葛藤」とは即ち「萬卷 生涯로 樂事ㅣ 無窮ᄒᆞ얘라,[16] 이 듕에 往來 風流를 닐어 므슴 ᄒᆞᆯ고?〈第７曲〉」（万巻の生涯、学びの悦びは無限なのだ、そんな中で往来やら風流やらを論じてどうするのか）という言葉と重なる葛藤なのであろう。

次に、作者不詳の高麗歌謡「鄭石歌」の冒頭の歌詞の例を見よう。

(23) 딩아 돌하 當今에 계샹이다 / 딩아 돌하 當今에 계샹이다 / 先王聖代예 노니ᄋᆞ와지이다〈樂章歌詞「鄭石歌」第一聯〉
鄭よ石よ、今ここにいらっしゃるから、申し上げるのです / …[反復]… /（あなた様の徳のもとで）「先王聖代」に、暮らしとうございます。

「계샹이다」は15世紀中葉の語形なら「겨샤이다」または「겨샤이다」となる所だが、これは②【お願い・要請】の用法であると考えられる。「-으시-」との共起は「-에라」の用法としては大変例外的ではあるが、この「겨시-」はあくまで「we have you」という意味合いを色濃く帯びているのだと考えれば、これをあくまで「自己の状態」の表現と理解する事も可能であろう。

「딩아 돌하」の解釈には諸説ありここでは深入りしない事にするが、本稿の上記の解釈を基盤として第六聯までの歌詞全体の主旨を解釈するならば、この歌は王の御前で歌う事を想定して「我々は有徳の殿下のもと、かの先王聖代のような世を謳歌しとうございます。我々はいつまでも永遠に、殿下のもとを離れたくありません。殿下と我々は、決して揺らぐことのない固い絆と信で結ばれているのです。」という具合に有徳の王を称賛しつつ、永きにわたる徳の治世をお願いする内容の歌詞と解釈するのが最も自然なように思われる。

もちろん、これらは文学的に重要な作品であるだけに、本節の議論はあくまで現段階での筆者の理解を記した暫定的なものとしたい。当該分野における先行研究の蓄積に深く学び、以上の言語学的理解をその中に適切に位置づける事は、今後筆者に課せられた課題である[17]。

5.3. 語末語尾化と「-게라」

以上、本稿は「-에라」「-에이다」について論じたが、これと密接に関係する「-게라」「-게이다」を本稿の立場からどのように理解するかという問題も、明確にしておく必要があるだろう。

まず、本稿で論じた「-에라」「-에이다」には、「아디 몯ᄒᆞ얘라」「아디 몯ᄒᆞ야이다」の形で用いられた以下のような例がある。これらは①【前置き・背景事情】の用法に分類されるが、漢文の「不審」の訳語として、漢文の語順をそのまま維持する形で挿入句的に使用されたものである[18]。

---

[16] この「無窮ᄒᆞ얘라」の用法もまた①【前置き】であり、③【困惑】の用法への連続性がある。

[17] 筆者は「感動法」の研究に基づき、高麗歌謡「青山別曲」の有名な句節「青山애 살어리랏다」「바ᄅᆞ래 살어리랏다」についても従来の解釈の再検証の必要性を論じた事がある。即ち拙論（2016, 2017）では、この「-으리랏다」が [後悔、無念] 等を表す「反実仮想」の文法である事から、これらの句説が現代語で言えば「살 수도 있었을텐데」、つまり「人里離れた山や海で、全く新しい人生を送ることもできたはずなのに」程度に解釈されるべき事を論じた。筆者は文学については門外漢であるが、しかし文法を無視した解釈は如何に権威ある解釈であっても不可である事は強調されねばならない。

[18] 4.4節の例文（16）にも「아디 몯ᄒᆞ예이다」という形が現れているが、挿入句的用法ではない点でこの（24）の例とは異なっている。

(24) a. 忽然 므레 드리틴 쟈근 和尙이 廳ㅅ 가온ᄃᆡ 안잿거ᄂᆞᆯ 보고 믄득 ᄀᆞ장 놀라 곧 廳에 올아 ᄒᆞᆫ ᄃᆡ 안자 和尙 ᄃᆞ려 무로ᄃᆡ "아디 몯ᄒᆞ얘라 和尙은 엇던 法術을 뒷ᄂᆞ뇨?" ᄒᆞ야ᄂᆞᆯ (乃忽見抛放水中者小和尙ㅅ 在廳中坐ㅅㅁ 不覺大驚ㅅㅣ 遂乃昇廳同坐ㅅㅣ 乃問和尙曰 不審 和尙有何法術ㅁㅅㅣㄴ) 〈佛頂13a-b〉

忽然と、水に投げ入れた小さな和尚が建物の中に座っているのを見て不意に驚き、やがて建物に入って共に座り、和尚に質問するに、「わからないのだ、和尚はどんな法術を身につけているのだ？」

(「わからなくて聞くのだが」、"몰라서 물어보는데")

b. 經에 니ᄅᆞ샤ᄃᆡ '生滅이 다 滅ᄒᆞ면 寂滅이 樂이 ᄃᆞ외다' 호ᄆᆞᆯ, 아디 몯ᄒᆞ야이다 어느 모미 寂滅커든 어느 모미 樂을 受ᄒᆞ리잇고? (經云ᄒᆞ샤ᄃᆡ 生滅이 滅已ᄒᆞ면 寂滅이 爲樂者ᄅᆞᆯ, 不審ᄒᆞ야이다 何身이 寂滅커든 何身이 受樂이잇고?) 〈六祖中86a〉

経では「生滅が滅したら寂滅が楽となった」と仰るのですが、わからないのですが、どの身が寂滅したらどの身が楽を受けるのですか？

(「わからなくて聞くのですが」、"몰라서 물어봅니다만")

このような「아디 몯ᄒᆞ얘라」「아디 몯ᄒᆞ야이다」の用法が、慣用的挿入句として需要があり、固定化し語彙化する事になったようである。その過程で本来連結語尾「-어」＋繋辞「이라」に由来する事が忘れられ、先語末語尾「-어-」を含むものと誤分析された結果、「-거-」との交替が実現して「아디 몯게라」「아디 몯게이다」[19]の語形が生じ、むしろこの形で定着する事となった。この慣用的挿入句は漢文の「未審」「不知」「未知」「未詳」等の訳語として、『圓覺經諺解』『牧牛子修心訣』『杜詩諺解』『六祖大師法寶壇經』『法集別行錄』『蒙山和尙六道普說』『論語諺解』『孟子諺解』という比較的限られた文献に現れる。

以下はその例である。直訳すればもちろん一律的に「わからないのです」といった訳になるが、ここでは上述した「慣用的挿入句（つまり副詞句）としての需要」に注目し、その必要とされた意味に対応すると考えられる日本語への意訳を試みる。

(25) a. ᄒᆞ다가 사ᄅᆞ미 一向ᄒᆞ야 이 了義經敎애 供養ᄒᆞ며 스며 施ᄒᆞ며 드르며 受待ᄒᆞ며 닐그며 외오며 사기며 思量ᄒᆞ며 닷가 이ᄀᆞ티 分布ᄒᆞ야 流傳ᄒᆞ면, 아디 몯게이다, 이 사ᄅᆞ미 智慧 功德이 畢境에 어느 地位예 니를리잇고? (若人이 一向於此了義經敎애 供養寫施聽受讀誦說釋思修ᄒᆞ야 如是分布流傳ᄒᆞ면 未審此人의 智慧功德이 畢竟에 至何位地잇고) 〈圓覺下3-2：69b〉

もし人がひたむきにこの了義経教に対して供養し、写し、施し、聴き、受持し、読み、誦んじ、説き、解釈し、考え、修行し、かくの如く分布して流伝すれば、はたしてどうでしょうか、この人の智慧功德は畢竟、如何なる地位に至るでしょうか？

b. 惠能은 和尙ᄭᅴ 엳ᄌᆞᆸ노니, 弟子ᄋᆡ 제 ᄆᆞᅀᆞ미 샹녜 智慧ᄅᆞᆯ 내야, 제 性을 여희디 아니호미 곧 이 福田이어시니, 아디 몯게이다, 和尙은 므슷 이ᄅᆞᆯ ᄒᆞ라 ᄒᆞ시ᄂᆞ니잇고?" (惠能은 啓和尙ᄒᆞᅀᆞᆸ노니 弟子ᄋᆡ 自心이 常生智慧ᄒᆞ야 不離自性호미 卽是福田이어시니 未

[19] それぞれ、一般的な「ᄒᆞ-」脱落規則に従った「*몯ᄒᆞ게라」「*몯ᄒᆞ게이다」の縮約形である。しかし、この「ᄒᆞ-」が脱落しない形は中期語では一切現れない。

審케이다 和尙은 敎作何務ㅣ잇고)〈六祖上7b-8a〉
恵能（私）は和尚様にお伺いさせて頂きます。私自身の心が常に智慧を生み、自身の性を離れない事こそが福田（福徳の種を蒔くべき田地）であるはずなのに、一体どういう事でしょうか（本当にわからなくてお尋ねするのです）、和尚様は何の作務[20]をしろと仰るのですか？

c. 過去에 輪廻ᄒᆞ던 業을 믈리 ᄉᆞ랑컨댄, 아디 몯게라 현 千劫이며, 또 黑暗애 디여 無間獄애 드러 種種 苦ᄅᆞᆯ 受호미 또 아디 몯게라 언마오?（追念過去輪廻之業건댄 不知其幾千劫이며 墮黑暗ᄒᆞ야 入無間ᄒᆞ야 受種種苦ㅣ 又不知其幾何오）〈牧牛子43a〉
過去に輪廻していた業を思い返せば、さて一体何千劫になるだろうか。また暗黒に堕ちて無間地獄に入り、種々の苦しみを受けた事は、これまたはたしてどれほどになるだろうか。

d. 봆 興에 아디 몯게라 믈읫 몃 마릿 그를 지스니오（春興不知凡幾首）〈杜詩22：16b〉
春の興に、はたして凡そ何首の詩を作っただろうか。

この「-어-」から「-거-」への交替は、即ち人為的行為の完了を表す「-어-」から自然発生的変化の完了を表す「-거-」への交替である[21]。その交替の動機としては、（25b）の例などが最も分かりやすいが、例えば現代語で言えば「이해를 못해서요」ではなく「이해가 안 돼서요」や「이해되지가 않아서요」という風に「하-」よりは「되-」を使いたくなるような心理、即ち「話者自身の意図や統制に関わらずそうなってしまった事」を明確に強調しようとする心理から生まれた表現であろうと考えられる。

ところが16世紀末の『論語諺解』『孟子諺解』に至ると、この「아디 몯게라」「아디 몯게이다」は全く異質な用法を見せるようになる。即ち、挿入句ではなく「-을 아디 몯게라（이다）」のように文末で用いる用法が現れ、更には「-을 듣디/보디 몯게라」等の表現すら現れるようになった。

(26) a. 子ㅣ ᄀᆞᆯᄋᆞ샤ᄃᆡ“사ᄅᆞᆷ이오 信이 업스면 그 可홈을 아디 몯게라”（子ㅣ 曰人而無信이면 不知其可也케라）〈論語1：17b〉
先生は仰った。「人として信が無ければ、その人物が可であるかは分かったものではない。」

b. 子ㅣ ᄀᆞᆯᄋᆞ샤ᄃᆡ“내 仁을 好ᄒᆞᄂᆞᆫ 者와 不仁을 惡ᄒᆞᄂᆞᆫ 者를 보디 몯게라”（子ㅣ 曰我未見好仁者와 惡不仁者케라）〈論語1：32b〉
先生は仰った。「私は、仁を好む者と不仁を悪む者を見た事がない。」

c. 子ㅣ ᄀᆞᆯᄋᆞ샤ᄃᆡ“말올띠라 내 德 好홈을 色 好홈 ᄀᆞ티ᄒᆞᄂᆞᆫ 者ᄅᆞᆯ 見티 몯게라”（子ㅣ 曰已矣乎ㅣ라 吾未見好德을 如好色者也케라）〈論語4：7a〉
先生は仰った。「何という事か、私は徳を好む事を色を好む事の如くする者を見た事がない。」

d. 臣ᄋᆞᆫ 듣오니 七十里로 ᄡᅧ 天下에 政을 ᄒᆞᆫ 者ᄂᆞᆫ 湯이 이니, 千里로 ᄡᅧ 人을 畏ᄒᆞᆯ 者를 듣디 몯게이다（臣ᄋᆞᆫ 聞七十里로 爲政於天下者ᄂᆞᆫ 湯이 是也ㅣ니 未聞以千里로 畏人

[20]「作務」とは禅宗で修行の一環としてする雑多な肉体労働を指す。

[21] この対立は、古典日本語の「完了」助動詞「つ」と「ぬ」の対立に相当する。

者也케이다）〈孟子2:31a〉

私めの聞いた所では七十里をもって天下を治めた者は湯がまさにそうですが、千里をもって人を畏れさせる者というのは聞いた事がありません。

ここで起こった事は結局、形の上では終結語尾の語形を持つ「아디 몯게라」「아디 몯게이다」が、その語形に相応しく、「文末用法」を獲得したということである。本来の「わからないから聞くのですが」という挿入句的用法は忘れられ、語形のみが独り歩きし、単なる荘重さを狙った擬古的強調表現として、「全くわかったものではない」という意味の言葉として再解釈されたらしい。恐らくそれは、自然発生的変化の完了「-거-」を含む一人称終結語尾の「-과라 [-거-오-다]」「-과이다 [-거-오-이-다]」程度のつもりで、即ち「아디 몯과라」「아디 몯과이다」（lit. "I have never got to know it."[22]）程度のつもりで使用されたものと考えられる[23]。これは、例えば現代人が感動法「-도다」の本来の意味用法[24]を忘れ、単なる荘重さを狙った擬古的表現としてこれを使用するようなものである。

そして一度獲得されたその「-을 아디 몯게라」（全くわかったものではない）という文末用法が、「-을 듣디/보디 몯게라」（全く聞いた／見たことがない，"I have never got to hear/see it."）という用法に拡張する事は極めて容易であった事と想像される。

最後に、語尾構造体の「語末語尾化」（単一語尾化）という観点から、本節の議論を今一度整理しておこう。これらは「-어ㅅ」から「-거ㅅ」が生じた関係と同じで、一種の類推的拡張である。即ち「-어ㅅ」や「-에라」「-에이다」が一つの塊となって語末語尾化し内部構造が意識されなくなった結果、本来は連結語尾「-어」に由来する母音「어」が先語末語尾「-어-」と誤分析され、-어- ～ -거- 交替のペアとして「-거ㅅ」や「-게라」「-게이다」が形成されたと考えられるわけである。

この「-에라」「-에이다」の「語末語尾化」は、また別の観点からも論じる事ができる。前述の通り、丁寧形の「-에이다」の場合は「이」が脱落した「-어이다」の語形で現れる事が多いが、現代語とは違い、中世語にはこのように母音の後で繋辞「이-」を脱落させる随意的規則は無い。つまりこの「이」の脱落は「語末語尾化」（単一語尾化）に伴う語形の摩耗とみ

---

[22] 完了相を have + p.p. で、自己の意志とは関わらない自然発生的変化であった事を get to V で、直訳的に表した英語表現である。

[23] こう考えると、이승희（1996：36）で指摘されるような、主に近代語以降に現れる「-괘라」という語形の形成過程も容易に説明できるようになる。即ちこれは「-과라」と「-게라」の混淆形と説明される。なお15世紀から現れる「-괘이다」は、「-과이다」の単純変異形と見られる。

また、時代が下って18世紀の『五倫全備諺解』でも以下のように「-게이다」がやはり15世紀の「-과이다」にあたる意味として使われているという事実も、この見解を強力に支持している。この文献では、「아디 몯게이다（不知）」という15世紀以来の本来の挿入句的用法が多用される中、以下（e）のような16世紀末の『論語諺解』『孟子諺解』以降の文末用法「-을 아디 몯게이다」の例も見出される。

a. 알과이다（理會得）〈五倫全備1：15a〉
b. 알게이다（理會得）〈五倫全備1：41b>< 五倫全備1：55b〉
c. 내 알게이다（我曉得了）〈五倫全備5：18b〉
d. 오늘 힝혀 相公이 와 예 이심을 엇게이다（今日幸得相公來在這裏）〈五倫全備5：26b〉
e. 是否를 아디 못게이다（不知是否）〈五倫全備6：29b〉

[24] 中期朝鮮語の「感動法」が本来、話者の「気づき（mirativity）」を体系的に示す専用の動詞活用システムであった事については、拙論（2016, 2017）を参照。

なす事ができ[25]、更には「-에라」が現代語で「-어라」となった変化とも軌を一にするものである。

6．まとめ

本稿は、現代朝鮮語の「感嘆」の「-어라」の遡及形である中期朝鮮語の「-에라」について、その語源的由来と意味用法の詳細を明らかにした。

この「-에라」は「-어」理由節に繋辞「이-」がついた形に由来し、現代語の「-어서 그래」「-어서 말이야」等に近い構造と意味を持つ。つまりこれは「-어」理由節が焦点化された「分裂文」(cleft sentence）に現れる「-에라」と連続的である。本稿ではこうした理解に基づき、これを「事情説明」の「-에라」と名付け、その用法を①【前置き・背景事情】、②【お願い・要請】、③【困惑・相談】、④【あいさつ言葉】の４つに分類した。この「事情説明」とは、必ず「話者自身の状態」の説明となる。①が最も典型的な用法であり、それぞれの用法は連続的で明確な境界線はひき難い。

この「-에라」は理由節に繋辞「이-」がついただけで、その主節にあたる核心部分が明示化されない一種の「省略文」である。「省略文」であるからこそ、省略された部分には「言わずとも察してくれ」と聞き手に促す働きかけが生まれ、その結果、相手に強く訴えかけたり、従来考えられてきた「感嘆」や「詠嘆」ともとれるようなニュアンスを帯びる事にもつながるのである。

本稿では次に発展的議論として、16世紀文献に少数の例が現れる「-에」の用法も全て上記の４つの分類に矛盾なく収まる事から、これを「-에라」の丁寧形「-에이다（-어이다)」に由来する「截断形」とみなす志部昭平（1982）の説が裏付けられる事を示した。また文学的観点から重要な価値を持つ高麗歌謡「鄭石歌」や16世紀の李退渓の「陶山十二曲」にもこの「-에라」や「-에」の用例が含まれており、当該の句節の従来の解釈は今一度、検証を求められる事を指摘した。

また、従来「-에라」の -어- ～ -거- 交替形とされて来た「-게라」は、元来「理由」の連結語尾「-어」に由来する母音「어」を「完了」の先語末語尾「-어-」と誤分析した事から類推的拡張により生じた交替形である事を論じた。この類推的拡張は「-어ㅅ」から「-거ㅅ」が生じた関係と並行的であり、語尾構造体の「語末語尾化」（単一語尾化）という朝鮮語の大きな歴史的流れの中に位置づけられる現象である。

伝統的に「感嘆」語尾として感動法「-도다」類や「-고녀」「-은뎌」「-을쎠」等と一括りにされてきた「-에라」であるが、本稿はこれに「事情説明」という固有の意味がある事を示した。感動法「-도다」類については、話者の「気付き（mirativity)」を体系的に示す専用の動詞活用システムであった事が既に拙論（2016, 2017）で示されている。どうやら「感嘆」という用語には、そういった意味の違いを覆い隠してしまう力がある事に、我々は警戒する必要がありそうである。また最後に、従来の朝鮮語史研究においては本稿で着目した「省略文」という観点が見落とされがちであった事も指摘しておきたい。

---

[25] これは、「-어 잇-」に由来する「-엣-」の母音「이」が脱落して「-엇-」(>-었-）となった事とも一脈相通ずる現象である。

参考文献

金文京・玄幸子・佐藤晴彦訳註（2002），『老乞大 ― 朝鮮中世の中国語会話読本』（東洋文庫699），平凡社.

志部昭平（1982），中期朝鮮語陳述法語尾小攷 ―*-a*／ə.*ira*, *-a*／ə.*ingida* について―，『朝鮮学報』104，朝鮮学会.

志部昭平（1990），『諺解三綱行實圖研究 ―本文篇―』，汲古書院.

河崎啓剛（가와사키 케이고）（2016），「중세한국어 감동법 연구 ―‘깨달음’과‘복수성’―」，서울대학교대학원 박사학위논문.

가와사키 케이고（河崎啓剛）（2017），『중세한국어 감동법이란 무엇인가』，신구학원신구문화사.

金明淳（2008），李滉 時調의 漢譯에 대하여，『時調學論叢』28，한국시조학회.

김명준（2004），『악장가사 주해』，도서출판 다운샘.

朴鎭浩（2011），韓國語에서 證據性이나 意外性의 의미성분을 포함하는 문법요소，『언어와 정보 사회』15，서강대학교 언어정보연구소.

서명희（2016），교육을 위한 노래，〈도산십이곡〉‘언지（言志）’의 뜻，『고전문학과 교육』32，한국고전문학교육학회.

安秉禧（1967），「韓國語發達史（中）文法史」，『韓國文化史大系Ⅴ 言語·文學史（上）』，高麗大學校民族文化研究所.

安秉禧·李光澔（1990），『中世國語文法論』，學研社.

이승희（1996），「중세국어 감동법 연구」，서울대학교대학원 석사학위논문.

李賢熙（1994），『中世國語 構文研究』，新丘文化社.

鄭在永（2001），國語 感歎文의 變化 ―감탄법 종결어미의 변화를 중심으로―，『震檀學報』92，震檀學會.

조용준（2017），감탄 어미‘-어라’의 특성과 문장 유형，『우리말글』74，우리말글학회.

허웅（1975），『우리옛말본』，샘문화사.

辞書類

汉语大词典编辑委员会汉语大词典编纂处 编纂（1990-93），『汉语大词典』（全13冊），上海：汉语大词典出版社.

影印資料類

국립한글박물관，디지털한글박물관（国立ハングル博物館「デジタルハングル博物館」）
https://archives.hangeul.go.kr/【デ】

문화재청，국가문화유산포털（文化財庁「国家文化遺産ポータル」）
https://www.heritage.go.kr/【国】

釋譜詳節（11）　【国】#523-3（이건희）
釋譜詳節（23, 24）　【国】#523-2（東國大）
月印釋譜（1, 2）　【国】#745-1（西江大）
月印釋譜（7, 8）　【国】#745-2（東國大）
月印釋譜（11, 12）　【国】#935（이건희）

月印釋譜（20）	【国】#745-11（임홍재）
月印釋譜（21）［重］	【国】#745-6（이건희）
月印釋譜（23）［重］	【国】#745-8（김종규）
月印釋譜（25）	【国】#745-9（보림사）
楞嚴經諺解	【国】#212（東國大）
法華經諺解（1, 3-6）	【国】#1010（아단문고）
法華經諺解（改刊本）	【デ】（國立中央圖書館）
圓覺經諺解	『圓覺經諺解』（弘文閣，1995）
牧牛子修心訣	【国】#934（이건희）
內訓（宣祖本）	『景印　內訓』（人文科學資料叢書 4，延世大學校人文科學研究所，1969）
內訓（光海君本）	『內訓 · 女四書』（亞細亞文化社，1974）
三綱行實圖（成宗版）	志部昭平（1990），『諺解三綱行實圖研究』，東京：汲古書院
杜詩諺解（3）	『韓國語研究』5（韓國語研究會，2008）
杜詩諺解（7 ,8, 13, 20, 22）	【デ】（국립한글박물관）
杜詩諺解（15）	『杜詩諺解（14, 15）』（弘文閣，1988）
杜詩諺解（16, 23-25）	『杜詩諺解（7, 8, 16, 20-25）』（弘文閣，1985）
杜詩諺解（21）	【国】#1051-3（淸州古印刷博物館）
金剛經三家解	【国】#772-2（奎章閣）
南明集諺解	『觀音經諺解・阿彌陀經諺解・南明泉繼頌諺解（上・下）・禪家龜鑑諺解【合本】』（弘文閣，2002）
佛頂心陀羅尼經	『 역주 불설아미타경언해・ 불정심다라니경언해』（세종대왕기념사업회，2008）
六祖大師法寶壇經	『六祖法寶壇經諺解』（上中下）（弘文閣，1983, 1992, 2000）
飜譯朴通事	『朴通事　上』（國語國文學資料集　第 4 輯，慶北大學校大學院國語國文學研究室，1959）
飜譯老乞大	『原本　老乞大諺解（全）』（國語國文學資料叢書，亞細亞文化社，1980）
飜譯小學（8, 9, 10）	『飜譯小學（八・九・十）（合本）』（弘文閣，1984）
正俗諺解	『역주 정속언해・경민편』（세종대왕기념사업회，2010）
小學諺解	『小學諺解 附索引』（退溪學研究叢書 第一輯，檀國大學校 退溪學研究所，1991）
論語諺解（1-3）	【国】#1109-3（임고서원）
論語諺解（4），孟子諺解	『〈原本〉論語諺解 孟子諺解 大學諺解 中庸諺解（合本）』（大提閣，1995）
陶山十二曲	【デ】어부가-도산십이곡（淸州古印刷博物館）
順天金氏諺簡	【デ】（忠北大博物館）
樂章歌詞	김명준（2004），『악장가사 주해』，도서출판 다운샘.
五倫全備諺解	『五倫全備諺解』（弘文閣，1997）

『釋譜詳節』『月印釋譜』の底経

『大正新脩大藏經』1-85，大正一切經刊行會（1924-1932）
『卍新纂大日本續藏經』1-90，国書刊行会（1975-1989）
李民樹 譯（1973），『目連經』（乙酉文庫 115），乙酉文化社.
CBETA 中華電子佛典協會（https://www.cbeta.org/）
SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース（https://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/），大藏經テキストデータベース研究会（SAT）

文献名	略号	T 大正新脩大藏經 X 卍新纂大日本續藏經
太子須大拏經	須大	T03 No.171
地藏菩薩本願經	地藏	T13 No.412
釋迦譜	釋迦	T50 No.2040
釋迦如來行蹟頌	行蹟	X75 No.1510
釋氏通鑑	釋通	X76 No.1516
目連經	目連	李民樹 譯（1973）

【謝辞】
本稿の執筆にあたっては、特に現代朝鮮語に関して、（韓国）仁荷大學校韓國語文學科の許仁寧先生に貴重なご助言を賜りました。この場を借りて、厚く感謝の意を表します。

On the So-Called Exclamatory '-에라' in Middle Korean

KAWASAKI Keigo

This paper clarifies the etymological origins and detailed usage of the Middle Korean exclamation ending "-에라", a retrospective form of the Modern Korean "-어라".

The ending "-에라" is derived from the form where the copula "이-" is attached to the "-어" reason clause, sharing a structure and meaning similar to Modern Korean expressions such as "-어서 그래" and "-어서 말이야". This form is continuous with "-에라" found in cleft sentences where the "-어" reason clause is focused and also represents a type of ellipsis where the core part corresponding to the main clause of the "-어" reason clause is not explicitly expressed.

Based on this understanding, the paper redefines this as the "explanatory -에라", categorizing its usage into four types: 1) preface or background information, 2) request or appeal, 3) confusion or consultation, and 4) greetings. This "explanatory" usage always pertains to explaining the "speaker's own state". Additionally, the usage of "-에", found in a few 16th-century texts, is also consistent with these four categories, considered to be the truncated form derived from the polite form "-에이다(-어이다)" of "-에라". These forms are present in significant literary works such as Goryeogayo (高麗歌謠) *Jeongseokga* (鄭石歌) and Lee Toegye (李退溪)'s *Dosan Sibigok* (陶山十二曲) from the 16th century, which invites a reevaluation of traditional interpretations of these phrases.

Furthermore, "-게라", traditionally understood as an alternate form of "-에라" involving the "-어- ~ -거-" alternation, is considered to be an analogical extension derived from a misinterpretation of the vowel "어" from the original conjunctive ending "-어" for constructing reason clauses, as the prefinal ending "-어-" indicating the perfect aspect. This extension is parallel to the emergence of "-거ㅅ아" from "-어ㅅ아", fitting within the broader linguistic development where multiple endings consolidate into a single word-final ending, reflecting a significant historical trend in the Korean language.